

# 私と医療

New Med Essay 一第199回



## 世界の人びとが 自らの健康を守れる社会を目指す

私は大学を卒業後、貿易関係の企業などで20年以上働いていたのですが、その間、徐々に国際協力に強く関心を持つようになっていきました。そして、意を決し退職して、その道に進むことにしました。転職先を探していた時、すでに45歳を過ぎていましたが、そのような私を受け入れてくれたのが、ケニアやブラジルで活動を行っていたNPO法人HANDS（ハズ）でした。

HANDSは「世界の人びとが自らの健康を守ることができる社会の実現」を目指して2000年に設立された団体です。現在までにアジア、アフリカ、中南米、大洋州などの開発途上国10カ国以上で、地域住民の健康を改善するための活動を行ってきました。なお、そのほとんどが首都から遠く離れた、医療施設が十分でない厳しい地域です。

HANDSに入るまでは、海外に行くとしても欧米や開けた東南アジアの国々が多く、電気や水が十分でない地域に行ったことはありませんでした。しかし、HANDSに入ってから訪れる地域は（私は出張者として行くので、かなり恵まれた場所が選ばれていると言われていましたが）、舗装された道で行ける場所はほとんどなく、曲がりくねったガタガタ道を長時間

も走行したり、道路はなく大きなボートから小さなボートに乗り換え、さらに1時間以上徒歩で行くような場所ばかりでした。

そして現地の医療施設は、ほとんどの場合、医療機器や設備、医薬品などが明らかに不十分であり、医療従事者の数も足りていませんでした。医療施設といっても働いているのは、看護師（または准看護師）が一人だけというところも少なくないのですが、それでも、彼ら、彼女らは、地域の住民の健康を守るためにプライドを持って懸命に働いており、その姿勢や責任感に対して大きな敬意を感じることも数多くありました。

私が、そのように現地で奮闘している人びとのもと役に立てるようにになりたい、また、もっと多くの現地の人が活躍できるようにしたいと強く願うようになったのは当然のことでした。ただ、その際、日本のやり方をそのまま持ち込むのではなく、現地にあった方法や仕組みを提案して地域の人びとの健康の改善に役に立てるようにしなければならず、そのために今後も努力していきたいと思っています。

さて、最近のHANDSが行っているちょっと毛色が変わった活動を紹介します。現在、HANDSは国内で小さく生まれた子ども

どもの育児支援として、母子手帳と一緒使用するリトルベビーハンドブック（LBH：写真）の普及を推進しています。日本の赤ちゃんの出生時の平均体重は約3kgですが、母子手帳の発育曲線グラフの体重は1kgからになっています。しかし、2019年の統計では1kg未満で生まれた赤ちゃんは1年間に2600人以上おり、その赤ちゃんの家族が体重を書こうと思っても目盛りがありません。

一方、LBHでは0kgから目盛りがあり、子どもの成長に合わせた記載が可能です。さらにLBHには小さく生まれた赤ちゃんと家族のために、NICUなど入院中の情報を十分に書き込む欄や、同じ境遇の先輩家族からのコメントや情報交換のための連絡先など様々な工夫がされています。

現時点では、まだいくつかの自治体でしか発行されていませんが、少しでも早く全国に普及できるように関係者とともに取り組んでいきたいと考えています。

特定非営利活動法人HANDS  
(Health and Development Service)  
代表理事

**横田 雅史** (よこた まさし)

1958年 広島県呉市生まれ  
1983年 上智大学文学部卒業  
2006年 特定非営利活動法人 HANDS 入職  
2008年 特定非営利活動法人 HANDS 理事・事務局長  
英国国立レスター大学経営学修士(MBA)取得  
2016年 特定非営利活動法人アフリカ日本協議会理事・事務局長  
2017年 特定非営利活動法人 HANDS 代表理事